

(様式①)

事業計画書目次

[都市整備局]

12款1項1目 企画費

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和7年度		令和6年度		増△減(7-6)		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	職員人件費	2,521,506	2,521,506	2,134,034	2,134,034	387,472	387,472	
2	総合調整費	12,678	12,638	11,987	11,951	691	687	
3	企画事務費	2,925	2,899	3,079	3,062	△ 154	△ 163	
4	土地取引監視対策費	1,158	1,158	1,179	1,179	△ 21	△ 21	
5	都市づくり総合調整費	60,961	60,949	24,524	24,518	36,437	36,431	○
6	歴史的景観保全事業	123,254	89,157	54,190	54,190	69,064	34,967	○
7	都市デザイン行政推進費	20,842	20,814	16,536	16,506	4,306	4,308	○
8	基地対策事業	1,138	428	1,284	574	△ 146	△ 146	
9	跡地利用推進事業	260,731	260,731	110,866	110,866	149,865	149,865	
-	都市計画マスタープラン等の改定検討	0	0	26,410	26,410	△ 26,410	△ 26,410	
	計	3,005,193	2,970,280	2,384,089	2,383,290	621,104	586,990	

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	総務課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
歳出予算科目	一般会計	12 款	1 項	1 目	政策番号	99 施策番号 99
事業名称	職員人件費					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	2,521,506	0	0	0	0	2,521,506
令和6年度	2,134,034	0	0	0	0	2,134,034
増▲減	387,472	0	0	0	0	387,472

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	2,505,858	2,375,792
	市債＋一般財源	2,505,858	2,375,792
決算	事業費	2,519,939	1,789,835
	市債＋一般財源	2,519,939	1,789,835

令和8年度	令和9年度	令和10年度
0	0	0
0	0	0

事業概要 (アクティビティ)	都市整備局職員人件費 ・常勤一般職員 273人 ・暫定再任用職員 常勤職員 1人							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業目的								
背景・課題								
根拠法令・方針決裁等								
根拠・データ等								
事業スケジュール								
事業開始年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	職員人件費	2,521,506	2,134,034	387,472	
	細事業合計	2,521,506	2,134,034	387,472		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長
	島崎 志紀子	濱名 陽介

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	総務課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号						
歳出予算科目	一般会計	12	款	1	項	1	目	政策番号	99	施策番号	99
事業名称	総合調整費										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	12,678	0	0	40	0	12,638
令和6年度	11,987	0	0	36	0	11,951
増▲減	691	0	0	4	0	687

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	15,528	12,325
	市債+一般財源	15,503	12,301
決算	事業費	8,183	7,056
	市債+一般財源	8,171	7,052

令和8年度	令和9年度	令和10年度
12,678	12,678	12,678
12,638	12,638	12,638

事業概要 (アクティビティ)	局内の各課が円滑に業務に取り組めるよう、局全体で使用する通信機器等を調達し、環境を整備をします。 また、職員の人権意識の向上や新採用職員及び転入職員の知識・技術の向上に資するための研修等を実施します。 また、特定事業主行動計画に基づき、局内でのワークライフバランス・ポテンシャル発揮の推進に取り組みます。						
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標							
		実績							
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標							
		実績							

事業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1 事務費等 局内の各課が円滑に業務に取り組めるよう、必要な事務機器等の購入や調整に加え、総務課の事務費用を執行します。 2 研修等 (1) 人権啓発研修 同和問題、職業差別、性的マイノリティーなど、身近にある様々な人権・差別の問題について、自分自身の問題として向き合うとともに、人権感覚、人権意識の向上を図るため、局内の職員を対象に人権啓発研修を実施します。 ・課長級以上職員を人権啓発指導者として位置づけ、係長級職員も含めてグループを編成し、グループ別自主研修を実施 ・責任職を対象とした研修の実施 ・一般職員を対象とした研修の実施 (2) 職場研修等 ・新採用職員及び転入職員研修:新採用職員及び人事異動による転入職員を対象に、局事業概要や現地視察等の研修を実施します。 ・資格取得支援:職員の人材育成及びキャリアアップを目的に、業務に関連する資格について合格者に受験料相当額を補助します。 3 特定事業主行動計画 女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画として新たに策定された「横浜市職員のワークライフバランス・ポテンシャル発揮推進プログラム-拡充版-」に基づく取り組みを実施します。 						
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

背景・課題							
-------	--	--	--	--	--	--	--

根拠法令・方針決裁等	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市職員のワークライフバランス・ポテンシャル発揮推進プログラム-拡充版- ・横浜市職員人権啓発研修推進要綱、都市整備局職員人権啓発研修推進要綱 ・横浜市職員研修規程 						
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

根拠・データ等	<p>人権啓発研修参加者推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別研修 3年度51回、4年度48回、5年度45回、6年度39回(見込)、7年度39回(見込) ・指導者講演会 3年度0回、4年度0回、5年度1回、6年度2回(見込)、7年度2回(見込) ・一般職員講演会 3年度0回、4年度0回、5年度は各自研修受講、6年度2回(見込)、7年度2回(見込) <p>※3年度、4年度については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、指導者講演会や一般職員講演会等の集合型研修を中止しました。</p>						
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

事業スケジュール							
事業開始年度	不明						

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	会計年度任用職員経費	8,066	7,142	924	報酬改定及び負担金率の改定による増

細事業(事業内訳)	2	研修等	189	189	0	
	3	事務費	4,423	4,656	▲233	単価の見直しによる減
	細事業合計		12,678	11,987	691	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	島崎 志紀子	北川 亮太	池田 花菜子

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	企画課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	2				
歳出予算科目	一般会計	12	款	1	項	1	目	政策番号	99	施策番号	99
事業名称	企画事務費										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	2,925	0	0	26	0	2,899
令和6年度	3,079	0	0	17	0	3,062
増▲減	▲154	0	0	9	0	▲163

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
予算	事業費	2,905	3,415	2,925	2,925	2,925
	市債+一般財源	-6,465	3,415	2,925	2,925	2,925
決算	事業費	1,689	2,111			
	市債+一般財源	-7,440	2,111			

事業概要 (アクティビティ)	企画課における事務費、都市整備関連の協議会運営費に係る経費							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業目的	企画課業務を効率的かつ円滑に執行するための経費							
背景・課題								
根拠法令・方針決裁等								
根拠・データ等								
事業スケジュール								
事業開始年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	事務費	2,925	3,079	▲154	見直しによる減
	細事業合計	2,925	3,079	▲154		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 森 隆行	係長 武富 玲子	山本 修平
------------------------------------	------------	-------------	-------

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	企画課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
歳出予算科目	一般会計	12 款	1 項	1 目	政策番号	26 施策番号 99
事業名称	土地取引監視対策費					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	1,158	0	0	0	0	1,158
令和6年度	1,179	0	0	0	0	1,179
増▲減	▲21	0	0	0	0	▲21

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	1,393	1,236
	市債＋一般財源	1,393	1,236
決算	事業費	1,032	1,236
	市債＋一般財源	1,032	1,236

令和8年度	令和9年度	令和10年度
1,158	1,158	1,158
1,158	1,158	1,158

事業概要 (アクティビティ)	国土利用計画法に基づく土地取引の届出の審査、必要に応じた勧告などを行い、適正かつ合理的な土地利用を図ります。							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
単位	目標							
	実績							
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
単位	目標							
	実績							
事業目的	国土利用計画法に基づく土地取引の届出の審査、必要に応じた勧告などを行い、適正かつ合理的な土地利用を図るとともに、届出の効率的な価格算定事務の執行などのため、届出のあった土地取引価格の分析を不動産鑑定士とともにを行います。また、地価公示及び県地価調査について、ホームページや啓発事業を通して分かりやすく情報提供します。							
背景・課題								
根拠法令・方針決裁等	国土利用計画法							
根拠・データ等	国土利用計画法 地価公示法 横浜市土地利用審査会条例 価格調査分析会運営要綱							
事業スケジュール	事業開始年度から通年							
事業開始年度	昭和49年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	事務費	738	777	▲39	見直しによる減
	2	地価啓発事業	420	402	18	地価情報ホームページ更新費等の増
細事業合計			1,158	1,179	▲21	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	森 隆行	溝口 隼也人	山本 修平

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	企画課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
歳出予算科目	一般会計	12 款	1 項	1 目	政策番号	29 施策番号 4
事業名称	都市づくり総合調整費					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	60,961	0	0	12	0	60,949
令和6年度	24,524	0	0	6	0	24,518
増▲減	36,437	0	0	6	0	36,431

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
予算	事業費	17,890	21,890	60,961	60,961	60,961
	市債+一般財源	17,865	21,884	60,961	60,961	60,961
決算	事業費	31,683	40,661			
	市債+一般財源	31,671	40,657			

事業概要 (アクティビティ)	都市づくりをとりまく環境や市民ニーズの変化に対応し、人や企業に選ばれる都市となるために、調査項目等を毎年精査しながら関係機関と連携した総合的な調査・調整を行う。							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	単位	目標						
		実績						
事業目的	人口減少社会や少子高齢化の進展など横浜市を取り巻く環境は急速に変化しています。横浜の強みを打ち出し、人や企業に選ばれる都市となるために、関係局等と連携した都市整備の総合調整、土地利用のあり方、まちづくりの方向性、国際競争力や地域力の強化に向けた具体的な戦略など、都市づくりに関する調査・検討を行う必要があります。 本事業は、都市づくりに関する調査・検討を行うことで本市全体の都市整備における多種多様な課題・ニーズへ対応することを目的としています。							
背景・課題								
根拠法令・方針決裁等	都市計画法等							
根拠・データ等	<ul style="list-style-type: none"> 人口【統計情報ポータル長期時系列データ】 平成11年度3,392,937人、平成24年度3,697,006人、令和4年度3,771,961人 企業数【経済センサス】 平成24年度45,179企業、平成28年度42,878企業、令和元年度48,512企業 							
事業スケジュール	総合的な調査・調整によるまちづくりの推進（通年）							
事業開始年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	都市づくり総合調整費	60,961	24,524	36,437	委託費による増
	細事業合計	60,961	24,524	36,437		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 森 隆行	係長 武富 玲子	山本 修平
------------------------------------	------------	-------------	-------

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	都市デザイン室	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	5					
歳出予算科目	一般会計	12	款	1	項	1	目	政策番号	30	施策番号	3
事業名称	歴史的景観保全事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	123,254	30,085	0	4,012	0	89,157
令和6年度	54,190	0	0	0	0	54,190
増▲減	69,064	30,085	0	4,012	0	34,967

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	52,546	57,234
	市債+一般財源	52,546	57,234
決算	事業費	50,582	53,029
	市債+一般財源	50,582	53,029

令和8年度	令和9年度	令和10年度
85,208	79,708	86,208
54,190	54,190	54,190

事業概要 (アクティビティ)	歴史を生かしたまちづくり制度の運用（歴史的建造物の保全活用に関する相談協議、工事等助成、広報普及など）を行う。							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
歴史的景観の保全	単位	目標	保全	保全	保全	保全	保全	保全
	保全	実績	保全	保全				
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
ヨコハマアンケート「現在の横浜市の景観について、総じてどう感じますか。」という問いに対し	単位	目標	76	78	78	78	78	78
	%	実績	79	84				
事業目的	横浜に残された歴史的景観を貴重な市民の財産と捉え、これらを保全活用し将来に受け継ぐことをまちづくりの中で実践していく。令和5年4月に実施したヨコハマアンケートでは、「あなたは歴史的建造物が横浜らしい景観の創出や豊かな都市景観の形成に寄与していると思いますか」という問いに対し、84.3%が「寄与している」「どちらかというど寄与している」と回答している。							
背景・課題	<p>横浜の歴史資産を後世へ継承し、横浜の個性や魅力としていくためには所有者と行政が互いに協力しなければ叶わない。歴史的景観保全事業は、横浜市が「選ばれる都市」を目指す際に必要不可欠な取り組みである。</p> <p>横浜市では、横浜らしい個性と魅力あふれる都市景観を形成している歴史的建造物の保全活用を進めている。歴史的建造物は特殊な素材や工法を用いているものが多く、その維持管理には通常の建造物より高額な費用が必要となり、所有者に過大な負担がかかる。外観保全等に係る工事等助成は、維持管理に係る所有者の負担を軽減し、歴史的建造物の保全活用へ繋げるために必要不可欠である。</p> <p>また、令和5年4月に実施したヨコハマアンケートでは、「あなたは歴史的建造物が横浜らしい景観の創出や豊かな都市景観の形成に寄与していると思いますか」という問いに対し、84.3%が「寄与している」「どちらかというど寄与している」と回答している。これを継続していくために、今後も歴史を生かしたまちづくりを推進する必要があり、本年度より、歴史的風致維持向上計画を運用し、国からの財源を確保する。</p>							
根拠法令・方針決裁等	歴史を生かしたまちづくり要綱（昭和63年制定） 歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）（平成20年制定） 景観条例（横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例）（特定景観形成歴史的建造物） 昭和63年市長方針決裁							
根拠・データ等	「歴史を生かしたまちづくり要綱」は、建造物の凍結的な「保存」ではなく、まちづくりの中で生きた「保全」を進めるため、昭和63年に制定した。この要綱に基づき、調査・設計、外観保全、耐震改修、などに上限額を決めた上で、2/3の助成率として、助成を実施している。「所有者の実情に沿った柔軟で弾力的な保全活用」を信条に、保全の対象を外観とし、内部は積極的な活用を目指している。歴史的景観の保全活用は、その継続に所有者の多くの困難な問題を伴うものであり、所有者と行政が協力し合い取り組むことが必要である。専門家の調査を経て、価値がある建造物を所有者の同意を得た上で、市と所有者が協力して保全・活用していくこととし、「登録」「認定」した上で市が保全改修への助成を行っている。令和6年3月現在、「登録」は212件、「認定」は104件となっている。							
事業スケジュール	1 歴史的建造物保全活用助成 改修工事等費助成（～3月）、維持管理費助成（～3月） 2 歴史を生かしたまちづくり制度運用 要綱に基づく登録及び認定（～3月） 歴史的建造物保全活用に関する事業調整（～3月） 普及啓発事業：歴史セミナー開催及び広報誌の発行（～3月） 歴史的建造物所有者向け相談対応（～3月）							
事業開始年度	昭和63年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
		1	歴史を生かしたまちづくり制度運用	11,284	13,004
2	歴史的建造物保全活用助成	111,970	41,186	70,784	

	細事業合計	123,254	54,190	69,064	
--	-------	---------	--------	--------	--

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、 公正・適正に作成しました。	課長	光田 麻乃	係長	鈴木 淳	遠藤 陽奈

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	都市デザイン室	新規拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	6	
歳出予算科目	一般会計	12 款	1 項	1 目	政策番号	29 施策番号	7
事業名称	都市デザイン行政推進費						

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	20,842	0	0	28	0	20,814
令和6年度	16,536	0	0	30	0	16,506
増▲減	4,306	0	0	▲2	0	4,308

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	17,011	17,015
	市債＋一般財源	16,969	16,973
決算	事業費	14,578	10,040
	市債＋一般財源	14,551	9,984

令和8年度	令和9年度	令和10年度
23,768	23,768	0
23,738	23,738	0

事業概要 (アクティビティ)	都市デザイン行政推進及び横浜市都市美対策審議会の運営を行う。							
事業指標① (アウトプット)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
都市デザイン行政の推進	単位	目標	推進	推進	推進	推進	推進	推進
	推進	実績	推進	推進				
事業指標② (アウトカム)	年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
ヨコハマアンケート「現在の横浜市の景観について、総じてどう感じますか。」という問いに対し	単位	目標	76	78	78	78	78	78
	%	実績	79	84				
事業目的	<p>都市デザイン行政としては、公共施設や民間施設のデザインの企画・調整や、官民連携によるきめ細やかな魅力づくり等、各主体の事業進捗にあわせて都市デザインの実践を進めている。これにより、「住みたくなる」「訪れたいくなる」、個性と魅力あふれる都市づくりを進めていく。</p> <p>また、横浜市都市美対策審議会では、都市の美観の向上や魅力ある都市景観づくりを図ることを目的に、建物やまちなみの美観、デザインなどのほか、「景観法」や「横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例」に基づく景観ルールに関する事など、重要事項について、審議を行っている。本審議会では都市デザインの専門家や市民委員等で審議を行うものであり、デザインの質を担保し横浜の個性と魅力あるまちづくりを推進するためには必要不可欠な審議会となっている。</p>							
背景・課題	令和6年4月に実施したヨコハマアンケートでは、「あなたが横浜の魅力だと感じるものを3つ選んでください」という問いに対し、84.2%の人が「街並み・景観（夜景を含む）」と回答。これを継続していくために、今後も都市デザイン行政を推進する必要がある。							
根拠法令・方針決裁等	横浜市都市美対策審議会条例（昭和40年7月制定）							
根拠・データ等	令和6年4月に実施したヨコハマアンケートでは、「あなたが横浜の魅力だと感じるものを3つ選んでください」という問いに対し、84.2%の人が「街並み・景観（夜景を含む）」と回答。							
事業スケジュール	都市デザイン行政推進：通年 都市美対策審議会運営：通年							
事業開始年度	昭和40年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
	1	事務費	5,817	6,368	▲551
2	都市美対策審議会運営	1,157	2,462	▲1,305	景観調整課と予算執行を分けるため
3	都市デザイン行政推進	13,868	7,706	6,162	
細事業合計		20,842	16,536	4,306	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	光田 麻乃	伊藤 三英	遠藤 陽奈

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	基地対策課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号	22					
歳出予算科目	一般会計	12	款	1	項	1	目	政策番号	99	施策番号	99
事業名称	基地対策事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	1,138	710	0	0	0	428
令和6年度	1,284	710	0	0	0	574
増▲減	▲146	0	0	0	0	▲146

歳出		令和4年度	令和5年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
予算	事業費	1,284	1,284	1,138	1,138	1,138
	市債＋一般財源	574	574	428	428	428
決算	事業費	803	1,061			
	市債＋一般財源	93	351			

事業概要 (アクティビティ)	市内米軍施設の早期返還及び返還実現までの間の市民利用の促進、米軍の活動が市民生活に支障をきたさないようにするための取組など、米軍施設に起因する課題に取り組むため事業を実施します。						
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
単位	目標								
	実績								
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
単位	目標								
	実績								

事業目的	市内米軍施設の早期全面返還及び返還実現までの間の市民利用を促進するとともに、米軍の活動による市民生活への支障を軽減させるよう基地対策に取り組みます。						
------	----------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

背景・課題	<p>(1) 市内米軍施設の返還促進 平成16年10月に日米政府間で返還方針が合意された市内米軍施設の早期返還を目指し、国に対し働きかけます。また、他の市内米軍施設についても、市会・市民の理解・協力を得ながら、国に対して早期返還を求めていきます。 ア 関係政府機関及び米軍との折衝並びに連絡調整 イ 厚木基地騒音対策協議会、厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会：航空機騒音の解消等</p> <p>(2) 安全対策等の取組 必要に応じて神奈川県や基地関係市とも連携し、米軍の活動や施設の所在が市民生活に支障をきたさないよう、米軍等に働きかけていきます。 ア 神奈川県基地関係市連絡協議会：米軍施設に起因する事件・事故等の防止等 イ 厚木基地騒音対策協議会、厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会：航空機騒音の解消等</p> <p>(3) 市民利用の促進 施設返還実現までの間、各施設の市民利用について国や米軍に働きかけ、道路等の共同使用、市民行事のための一時利用などの拡大を図ります。</p> <p>(4) 市民への広報 ホームページ「横浜市の基地問題への取組」による情報提供等</p>						
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

根拠法令・方針決裁等	<p>「米軍返還施設返還跡地利用指針」(平成18年6月策定) 「横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画」(平成19年3月策定、平成23年3月改定) 「返還予定財産の処分方針の策定について(理財局長通知)」(平成21年6月策定、令和元年9月改定)</p>						
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

根拠・データ等	<p>【市内米軍施設の返還状況】 ＜平成16年の返還合意施設＞ ・返還済(375ha) 旧小柴貯油施設(平成17年返還、53ha)、旧富岡倉庫地区(平成21年返還、3ha)、旧深谷通信所(平成26年返還、77ha)、旧上瀬谷通信施設(平成27年返還、242ha) ・未返還(44ha) 根岸住宅地区(令和元年共同使用、43ha)、池子住宅地区及び海軍補助施設(横浜市区)飛び地(1ha) ＜提供中施設＞ 鶴見貯油施設(18ha)、瑞穂ふ頭/横浜ノースドック(52ha)、池子住宅地区及び海軍補助施設(横浜市区)飛び地以外(36ha)</p> <p>【実績の推移】 平成20年3月 「小柴貯油施設跡地利用基本計画」策定(環境創造局で事業中) 23年7月 「旧富岡倉庫地区返還跡地利用基本計画」策定 30年2月 「深谷通信所跡地利用基本計画」策定 令和2年3月 「旧上瀬谷通信施設跡地利用基本計画」策定(都市整備局で土地利用検討中) 3年3月 「根岸住宅地区跡地利用基本計画」策定</p>						
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

事業スケジュール	<p>6月頃：「横浜市と米軍基地」発行、政府要望 8月頃：神奈川県基地関係市連絡協議会要請 11月頃：厚木基地騒音対策協議会要望行動、政府要望</p>						
----------	-------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

事業開始年度	昭和31年度（それ以前については不明）
--------	---------------------

細事業(事業内訳)	細事業名称	7年度	6年度	差引(増減)	(単位:千円) 増減説明
	1	広報	435	485	▲50
2	旅費	180	210	▲30	実績に応じた見直しによる減
3	負担金	166	166	0	
4	事務費	357	423	▲66	実績に応じた見直しによる減
細事業合計		1,138	1,284	▲146	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	久世 学	吉田 則也	小林 加苗

令和7年度 事業計画書

事業局課	都市整備局	基地対策課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	23					
歳出予算科目	一般会計	12	款	1	項	1	目	政策番号	26	施策番号	4
事業名称	跡地利用推進事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和7年度	260,731	0	0	0	0	260,731
令和6年度	110,866	0	0	0	0	110,866
増▲減	149,865	0	0	0	0	149,865

歳出		令和4年度	令和5年度
予算	事業費	60,087	52,746
	市債+一般財源	60,087	52,746
決算	事業費	55,222	49,733
	市債+一般財源	55,222	49,733

令和8年度	令和9年度	令和10年度
467,231	197,731	2,974,000
467,231	197,731	2,974,000

事業概要 (アクティビティ)	今日においては得難い貴重な空間資源となった米軍施設返還跡地について、跡地利用に必要な調査・検討を行うとともに、国などの関係機関と調整を進めます。 平成16年10月、日米政府間でこれまでにない大規模な返還方針が合意され、当時の市内米軍施設の総面積約528ヘクタールの79%が返還対象となりました(6施設)。18年6月に「米軍施設返還跡地利用指針」を策定し、この指針の具体化に向けた「横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画」(19年3月策定、23年3月改定)に基づき取組を進めています。							
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
跡地利用推進事業	単位	目標	事業化検討						
		実績	事業化推進	事業化推進					
事業指標② (アウトカム)		年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
跡地利用推進事業	単位	目標	事業化推進						
		実績	事業化推進	事業化推進					

事業目的	返還によるメリットを市民が十分享受できるように、都市基盤等の整備、周辺まちづくりを行い、これまでの接収・提供によるまちづくりの遅れを解消します。
------	--------------------------------------------------------------------------

背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> 根岸：返還後速やかに跡地利用を推進し、早期に民間土地所有者等の土地利用が図れるよう、市施行による土地区画整理事業の事業化に向けた調査・検討を着実に進める必要がある。 深谷：跡地利用基本計画に基づき各局が進める事業(公園、公園型墓園、道路)の全体調整を担うと共に、返還前の米軍施設内を市民が日常的に利用していた経緯(野球場・広場・通路等)を踏まえ、事業開始前の暫定利用について本市が調整を行う必要がある。 富岡：野球場の跡地利用に向けて、サウンディング型市場調査における提案や地元意見、地域の課題、市の施策等を踏まえ、跡地利用基本計画の改定や地区計画など都市計画案の検討を行うとともに、地元や関係機関との調整を行う必要がある。 池子：広域避難場所として位置付けられていることを踏まえ、発災時における速やかな利用ができるよう、訓練の実施や利用手順の整理を地元から求められている。また、返還方針が合意されていることから、返還後、速やかな土地利用が図られるよう検討を進めていく必要がある。 米軍施設及び返還施設の大半が国有地であり、円滑な跡地利用には国の協力が不可欠となる。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

根拠法令・方針決裁等	「米軍返還施設返還跡地利用指針」(平成18年6月策定) 「横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画」(平成19年3月策定、平成23年3月改定) 「返還予定財産の処分方針の策定について(理財局長通知)」(平成21年6月策定、令和元年9月改定)
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

根拠・データ等	【市内米軍施設の返還状況】 <平成16年の返還合意施設> ・返還済(375ha) 旧小柴貯油施設(平成17年返還、53ha)、旧富岡倉庫地区(平成21年返還、3ha)、旧深谷通信所(平成26年返還、77ha)、旧上瀬谷通信施設(平成27年返還、242ha) ・未返還(44ha) 根岸住宅地区(令和元年共同使用、43ha)、池子住宅地区及び海軍補助施設(横浜市域)飛び地(1ha) <提供中施設> 鶴見貯油施設(18ha)、瑞穂ふ頭/横浜ノースドック(52ha)、池子住宅地区及び海軍補助施設(横浜市域)飛び地以外(36ha) 【実績の推移】 平成20年3月 「小柴貯油施設跡地利用基本計画」策定(みどり環境局で事業中) 23年7月 「旧富岡倉庫地区返還跡地利用基本計画」策定 30年2月 「深谷通信所跡地利用基本計画」策定 令和2年3月 「旧上瀬谷通信施設土地基本計画」策定(脱炭素・GREEN×EXPO推進局で事業中) 3年3月 「根岸住宅地区跡地利用基本計画」策定
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業スケジュール	3月：返還予定財産に関する調査・協議会 4月：横浜市返還施設跡地利用プロジェクト
事業開始年度	平成17年度

(単位：千円)

細事業名称	7年度	6年度	差引(増減)	増減説明
-------	-----	-----	--------	------

細事業(事業内訳)	1	根岸住宅地区	250,000	100,000	150,000	土地区画整理事業の事業化に向けた調査・検討業務実施による増
	2	旧深谷通信所	6,000	6,000	0	
	3	旧富岡倉庫地区及び 池子住宅地区(横浜市区)の飛び地	4,000	4,000	0	
	4	事務費	731	866	▲135	実績に応じた見直しによる減
	細事業合計		260,731	110,866	149,865	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	久世 学	吉田 則也	小林 加苗